

平成27年度 第3回公立大学法人公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 平成27年10月30日(金) 10:00~12:05
- 場 所 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 三野徹委員、岡田昭明委員、富岡庄一委員、岡崎誠委員、今井正和委員、千葉雄二委員、角紀代恵委員、木下法広委員、田中仁成委員、常田禮孝委員、山本仁志委員
[11名/14名]
- 欠席者 高橋 一委員、小林楨太郎委員、中島廣光委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり了承。

2 審議事項

(1) カリキュラムの見直しについて

資料に基づき説明があり、主な改革内容として、

① リベラルアーツの充実

- ・自分の専門分野のみを勉強するのではなく、他の学部の基礎的な科目を履修し、自分の知識の幅を広げ、社会に出たときに他分野についても基礎的なことについて履修できている状況を目指す。
- ・指定された他学部の科目を取得した場合、人間形成科目(教養科目)の一部として単位認定し、卒業要件の取得単位数に加味できる。

② 英語科目について

- ・1、2年の2年間をかけて英語科目を履修する
- ・授業時間を45分×30回、2単位を取得できるものとする。
これを受けて、週当たりの英語科目の授業時間数が1科目週2回、週に4日は英語科目に触れることで、学生の英語能力の向上につなげる。
- ・第二外国語を、これまでの選択必修科目から、選択科目へと変更。

③ 進級要件の設定

- ・2年生から3年生に進級する際に、要件を設けることを検討中。
- ・単位数とするか、必要科目とするかを、各学部で検討中である。

について、説明があった。

主な意見・質疑は以下のとおり。

<意見交換・質疑応答>

- ・相互取得できる科目は、もっと増やしてもいいのではないか。あくまで限定的な科目とするのか。
⇒まずは現在の科目数で始めて、今後、増やすこともできると考える。
ただ、このほかにも、4科目は学生が希望すれば違う学部の科目を取得できる。
- ・英語について、毎日英語に触れる、というのは良い取り組みと思うが、学生にとって、45分授業を1限取得した場合、その後の空き時間をどうするか。
⇒通常の、2限に至るまでの残り45分を、英語村を活用するなどしても良いと考えてい

る。また、空いている時間に研究室を利用したり、自習の時間に充てるなど、学生の有効な時間として活用してもらいたい。

- 英語について、同じ日に2科目受講することについてはどう考えるか。
⇒基本的には、同じ日にならないように時間割を調整する。
- カリキュラム改革のスケジュールについて、来年度から開始する場合、来年度2年生以上の学生にとっては、科目の改廃等を周知する等、検討はしているか。
⇒現在の在學生には、従来のカリキュラムで運用する。支障のないよう運用したい。
- それぞれの学部の基礎的な科目を、他学部の学生が修得できるということ自体には賛同だが、どの程度の内容にするか、ということに関しては、卒業要件単位をどう構成するかという点と関連して考えるべきである。卒業要件単位のうち、どの分野になるのか。
⇒現行のカリキュラムでは、他学部での取得単位は「その他科目」として扱っている。新カリキュラムでは、「人間形成教育科目」として取り扱う。
- 新カリキュラムにおける相互修得科目は必須にするのか、とることができる（卒業要件単位にできる）のか、どちらか。
⇒現在、検討中であるが、1科目は取得して欲しいと考えている。
- 専門科目として開講されているものを、他学部の学生が修得することについて、本来の学部生にとっては、その後さらに専門的に進んでいく科目であり、それを他学部の学生が同時に受講することは、教える側にとっても、受講する互いの学生にとっても、どう調和させるかが難しいと思うがいかがか。
- 近年の大学生は、自分で独立して学ぶ、という姿勢が身につけていない学生が多い。初年次教育を設けるということも考えてはどうか。
⇒かつての一般教養とは違う、新しい環境大学のリベラルアーツで何ができるかを考えた。今回の改革は、専門科目の基礎的な部分を他の学部生にも受講させることで、リベラルアーツとしてやってみよう、という取組みであり、最初は教える側にも課題は生じるかもしれないが、まずはやってみたいと思う。
また、もともと人間形成教育科目において、文章作成等の1年次生向けの科目を設けており、これまで同様プロジェクト研究を活用し、研究や対人コミュニケーションも培えると考えている。
- 45分という時間の区切りを考えられた理由は何か。記憶力の限界を考慮してか。
⇒集中力が持続する限界も含め、読み書きに効果的な時間として考えた。
今回初めての取組みであり、他の科目との整合性も考慮した。
- 経営学部の共通科目について「統計学」があるが、環境学部では統計学は授業として開講していないのか。実験系学であるのなら、統計学を必須にするべきではないか。
⇒環境学部の必修科目ではないが、経営学部の共通科目を履修することもできるため。
- 第2外国語について必修を外した理由は何か。
⇒新カリキュラムでは、週に4日英語授業がある。これに必修としてさらに語学科目を科すことは、学生の負担が大きいと判断した。

共通言語としての英語を、基礎的知識としてしっかり身に付けさせたい。

3 報告事項

(1) 近況報告

資料に基づき、在籍者の状況、全国高校生論文実施結果その他近況について報告があった。

<意見交換・質疑応答>

- ・環境論文 TUES カップについて、今後、どのような見直しを行う予定か。
⇒内容が、主張メインであったり宿題の様相があるものなど、若干、論文というにはそぐわないと感じられるものが少なくないことから、環境論文としてのテーマの在り方等を検討していく予定。
- ・英語村について、今後、鳥取市教育センターでの取り組みとして、子供を対象とした『きなんせイングリッシュワールド』というものがあり、教員向けの研修会に発展させるなど、ぜひ、英語村との連携・ご支援を頂きたい。
- ・国際交流事業計画について、国際交流に関し、海外に学生が留学する際、行かせたいと思っても、費用の自己負担が大きく、金銭的に余裕のある者にしか留学の機会が設けられない現状があるかと思う。優秀な学生に対し、奨学金等の措置をとるといった構想はないか。
⇒現在のところ多額の補助はできないが、なるべく支援はしていきたいと考えている。

(2) 平成27年度補正予算（第3回）について

資料に基づき報告があった。

(3) 翌年度以降の債務負担行為について

資料に基づき報告があった。

(4) 平成28年度予算編成方針について

資料に基づき、実験研究棟の整備、講義等の増築、新カリキュラム実施について、及び情報システムのアウトソーシング導入に伴う予算増について説明の上報告があった。

(5) 公立大学法人公立鳥取環境大学中期目標に係る中間評価及び中間目標の見直しについて

資料に基づき報告があり、中期目標を達成するための目標の追加及び、目標数値の追加について説明があった。

(6) 大学院の設置に係る経過と今後の予定について

資料に基づき、新研究科が来年度4月より発足が正式に決定された旨報告があった。

(7) 平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生事業」「地（知）の拠点大学」の認定結果について

資料に基づき報告があった。

<質疑応答>

- ・地元の企業、地元に住む人間としては、大きく期待している。
- ・キャリア教育について、地元の企業の方が講義に参加したり、地元の企業に見学に行くなど、地元の企業との関わりについても、授業の一環として取り組んでいただくようにしていきたい。
⇒現在行っているキャリア教育をさらに充実させていきたい。
地元の企業に来ていただくだけでなく、経営者について勉強する機会も持ちたいと考えている。
- ・地域に定着した人材、というと、本県ではどうしても公務員が多くなりがちである。どんな人材が行政に求められているか、そのためにどう育てるか、企業サイドだけでなく、県や市にもアプローチが必要かと感じる。
⇒衛生技師や行政分野での人材が必要とされていると理解している。
地元に残るような取り組みを活用していきたい。

(8) 専任教員の採用について

資料に基づき報告があった。

(9) 専任教員の昇任について

資料に基づき報告があった。

(10) 入試実施状況

資料に基づき今後の入試試験日程等について報告があった。

(11) 就職活動状況

資料に基づき報告があった。

(12) 公立鳥取環境大学本部・講義棟増築工事について

資料に基づき報告があった。

4 その他